

平成27年度

小・中学生フォーラム in 西新宿中学校

新宿区では、毎年、小・中学生と区長が意見を交換する「小・中学生フォーラム」を開催しています。このフォーラムは、子どもたちの意見を区の施策の参考にするとともに、子ども自身が新宿のまちに関心と愛着を持ち、区政に積極的に参加することを目的とするものです。

7月7日(火)は、西新宿中学校(西新宿8-2-44、校長:佐藤政明)の2年生74名と、「外国の人が住みやすいまちづくり」をテーマに、吉住健一区長と意見を交換しました。

当日は、学年の代表となった3つのグループが、「新宿区を、もっと外国の人にも住みやすいまちにするには?」という課題をもとにプレゼンテーションを行い、課題解決に向けた提案を行いました。

最初のグループの発表では、外国人が日本に来て苦労す

▲シェアハウスをつくる

ることの中から言葉・住居・友人の3つの課題に注目し、これを解決する方法として「外国人と日本人が一緒に住むことができるシェアハウスを作る」という提案がなされました。

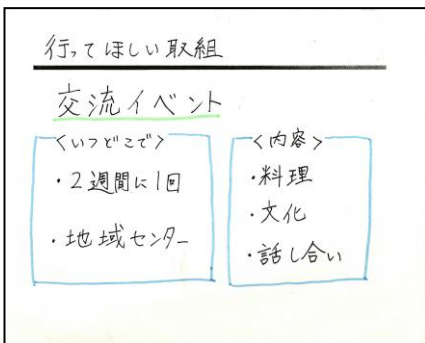
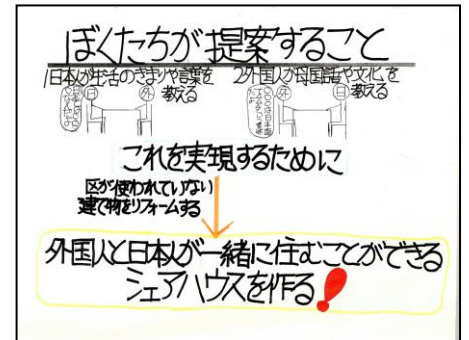
2番目のグループでは、願うまの姿として「外国人と日本人が協力しあうまち」、「文化が交流しあうまち」を目指すために、「2週間に1回の頻度で交流イベントを行う」などを通して、外国の人々が長く住み続けられるまちづくりについて発表がありました。

最後のグループは、日本人による外国人への差別や偏見をなくすことが、新宿区をよりよいまちにするための第一歩であるとして、「ボランティア活動を通して日本語を教える」を提案しました。これらの活動を通して差別や偏見を取り除いていけば、互いの文化を尊重できることを強調し、最後は大きな声で「YES WE CAN!」の掛け声とともに締めくくりました。

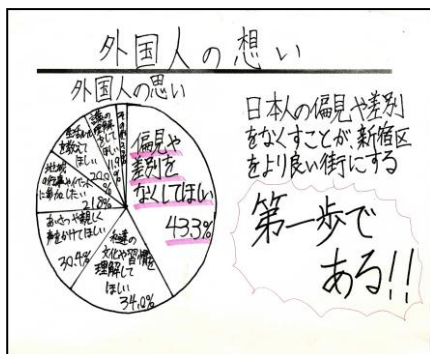
これらの発表に対して吉住区長は、それぞれのグループの発表の講評を述べた後、提案に関しても、自身の体験談などを交えながら話題を広げ、会場の生徒たち全員に語りかけました。

まとめとして、その後は発表者以外の生徒からも元気のよい質問がとび出し、区長から「自分の文化を理解できるから、相手の文化も理解できる。今日いただいた提案をもとに、新宿区も誰もが住みよいまちをつくっていききたい」との話がありました。

生徒たちは今回のフォーラムを通して、外国の人たちと一緒に暮らす大切さへの理解や、自分も新宿区民の一員であるという自覚を、一層深めることができました。



▲交流イベントを行う



▲日本人による外国人への偏見や差別をなくす